

2.20 成田支部 3・25 決起

成田支部は二月二十日、一九八三年度定期委員会を開催し、3・25三里塚、動乗勤、84春闘にむけて総決起する方針を満場一致で決定しました。

「3・25五割動員を実現し、動乗勤改悪阻止、84春闘へつき進もう」

——日暮支部長がいさつ——

委員会は、十三時三十分、中島執行委員の司会により、議長に乗務員分科の石井一雄委員を選出して開催されました。

日暮支部長がいさつにたち、「成田支部第六回定期大会以降四カ月が過ぎました。国内では、ロッキード判決後の選挙闘争において、地元二区・小川国彦候補の当選をかちとり、一定の区切りをつけました。中曽根内閣による軍事大国化・改憲の反動攻撃は、ますます強化されています。国鉄内では59・2が提案され、成田支部でも構内、指導、技術掛の問題など一定の歯止めをかけたものの、全国的には提案どおり進められています。また、新総裁の仁杉は国会答弁において、六五年度までに二五万人体制にするとの答弁をしています。これら、合理化攻撃にどう歯止めをかけていくのか。また、3・25にむけた五割動員体制をどう創り上げていくのか。この場で討論を尽し、成田支部一・二一名の団結をうち固め、3・25の動員力をもつて84春闘につき進んでいこう」と決意を述べました。

つづいて、本部を代表して山口副委員長が、国鉄・三里塚をめぐる情勢に詳しくふれたうえで、とくに、「こうした攻撃を阻止するためにも、生産点での力を示さなくてはなりません。力を示すということが動労千葉の組織力を示すことです」と強調されました。

熱心な討論で3・25総力決起を確認

執行部より経過報告がなされ、動乗勤、84春闘、3・25三里塚五割動員にむけての取り組みの提起、さらに地域班結成にむけた取り組み、動労千葉結成五周年記念実行委員より報告をうけて質疑討論に入りました。

支部通信員 光

討論は、第一に、3・25にむけての動員体制は、スト体制と同等の意識をもち、支部、分科、青年部役員は年休、変番など最先頭で参加しよう。第二に、内外勤の代務体制について第三に、四五三仕業の食事問題等について第四に、銚子支部との交流会について、が出され、予定時間をオーバーする熱のこもった討論が行われ、経過と方針を満場一致で確認しました。最後に、闘争宣言を採択し、日暮支部長の音頭で団結ガンバローを三唱して成功裡に終了しました。また、この日、退職者、転出者の送別会が盛大に行われました。

確認された具体的取り組み（要旨）

- (1) 3・25三里塚五割動員を達成しよう。
三里塚で中曽根の反動を打ち破り、敵との力関係を転換することとおして、動乗勤、84春闘勝利などすべての職場闘争はかちとられ前進する。
支部は、以上の立場にふまえて、3・25三里塚集会へは、本部指示である「五割動員」をかちとるため次のとおり取り組みとします。
 - ① 一・二一名×〇、五・六〇五名↓五〇人の動員実現を目標とする。
 - ② この目標を達成するため、明、公休、日勤者の全面協力の他に、支部、分科、青年部全役員は「スト体制」という強い決意で決起し、全員、年休、交番変更で参加する。
 - ③ そのためのオルグを次の通り展開する。
 - a 三月十四日に開催される本部定期委員会を第一の節目として、波状的オルグを実施。
- ★ 二月二十日 支部定期委員会
- ★ 二月二二日～二四日 支部定期委員会報告、ワッペン闘争の張り付きオルグ。
- ★ 三月一日 年休申し込み

（以下、裏へ続く）